

名誉会員 山田尚勇博士を偲ぶ

三好 和憲

工学院大学情報学部コンピュータ科学科

2008年5月21日山田尚勇先生が逝去されました。77歳でした。

先生のご業績については、Yamada-McNaughtonのオートマトン理論、無連想式2ストローク漢字入力方式T-codeなど、会員諸氏には馴染み深いものと思いますが、1972年6月、当時の言葉で「頭脳流出」先の米国から東京大学理学部附属情報科学研究施設数理言語学部門(1975年に施設から学科への転換により数理言語学講座)の教授として帰国され、ご縁のあった私が先生の初代助手に採用されました。先生は帰国後もしばらく頭の中では英語で考えておられたようですが、「えーと、日本語で何て言うんだっけ、controversy」「論争ですか」「そうそう、甲論乙駁だよ」と難しい日本語も覚えておられました。

当時、情報科学研究施設・情報科学科では水曜日に昼食会が開かれ教室運営の打合せと雑談の場となっていました。先生は常に笑顔絶やさない円満なお人柄と皆が興味を持つ豊富な話題で、毎週楽しい食事をさせていただきました。

UFO、超能力等でTVが誤った情報を流すのを苦々しく思われ、電気工学の専門家を標榜する某国立大学教授がこれらの番組にお墨付きを与えているのを我慢できず、これを糺すべく積極的に発言をされました。程度の低い者を相手にするのは沽券にかかわるといのが大学教授の普通の対応ですが、後の、バラエティ番組だけでなくニュース、教養番組にまで「面白ければ嘘でもいい」との風潮がはびこり、高学歴の理系学生がオウムに取り込まれる状況を作ったことを考えると先生のように対応する教授が多くいたらとの思いがあります。

先生が企画された国際シンポジウムISUSAL (International Symposium on Uniformly Structured Automata and Logic)の原稿整理、先生が研究代表者を務められた文部省科学研究費補助金特定研究「広域大量情報の高次処理」C7班「計算機による記号及び数式処理のコンパティビリティの研究」と同「情報システムの形成過程

と学術情報の組織化」B10班「汎用記号処理システムの研究」の世話役分担者をさせていただきましたが、私が申請の作文をしていたとき、「科挙の試験では皇帝の名前が行の頭に来るように作文しないとそれだけで落ちるからね」「じゃあLispが行の頭に来るように構文を調整します」と冗談のような会話もありました。

カメラがご趣味で、米国時代のコレクションのほとんどをご自宅の建設資金に売却された後も、かなりの台数をお持ちでした。集めて飾ったり投機の対象にされるのではなく、優れた機構に感動してつい購入されるという生粋のメカニズムマニアで、実像形成式ファインダの頂



点ライカM3、フレーム切替ファインダの最高傑作ニコンSPは手許に複数台を残された一方、優雅なデザインと独創性で世間で名機の誉れが高い某一眼レフも「ミラーの支持機構がちやちで、フィルム面とフォーカシングスクリーンが光学的に共役でないからマット面があっても画面の中心でしかフォーカシングできないんだよ」と先生の購入対象からは除かれるという徹底ぶりでした。「オモチャの哲学」をテーマにした1974年の第4回高橋コンファレンスでは、「カメラあれこれ」の題で、Polaroid SX-70の詳細、スピードライトのEdgerton特許など技術とは何かを熱

く語っていただきました。

米国の大学とは違う雑用の多さに苦勞をなさいましたが、師McNaughtonの宿題を「こんな簡単なはずはない」と誤解してより厳密な条件で解かれたように、何事にも徹底して取り組み、学術情報センターに移られた後は、情報科学分野の研究にとどまらず、真の技術立国のため日本人の国民性の問題、知的能力の開発に必要な分析と提言をなさいました。

1999年度情報処理学会功績賞を受賞されたとき拓殖大学八王子キャンパスでお目にかかったのが最後となりましたが「やあ、三好さん、お元気？」の温かい笑顔が今も眼に見えるようです。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(平成20年6月13日)

御 略 歴

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1930年 6月 8日 | 東京生まれ |
| 1953年 3月 | 東京大学工学部電気工学科卒業 |
| 1956年 6月 | 米国ペンシルバニア大学電気工学部修士 |
| 1960年 5月 | 米国ペンシルバニア大学電気工学部博士 |
| 1960年 6月～1962年 9月 | 米国ゼネラルダイナミクス社研究員 |
| 1961年 9月～1962年 5月 | 米国ロチェスタ大学応用数学科非常勤講師 |
| 1962年 9月～1966年 8月 | 米国 IBM ワトソン中央研究所研究員 |
| 1966年 7月～1972年 5月 | 米国ペンシルバニア大学電気工学部準教授 |
| 1972年 6月～1991年 3月 | 東京大学理学部教授 |
| 1988年 4月 | 学術情報センター研究開発部長（現・国立情報学研究所） |
| 1988年 5月 | 東京大学理学部名誉教授 |
| 1994年 4月 | 学術情報センター副所長（現・国立情報学研究所） |
| 1996年 5月 | 学術情報センター名誉教授（現・国立情報学研究所） |
| 1996年 4月～2001年 3月 | 中京大学情報科学部教授 |
| 2008年 5月 21日 | 逝去（77歳） |
| | |
| 1971年 8月 | 情報処理学会入会 |
| 1977年 5月～1979年 5月 | 情報処理学会理事 |
| 1987年 5月～1989年 5月 | 情報処理学会監事 |
| 1977年 | 情報処理国際連合（IFIP）国内委員 |
| 1978年 | IFIP 国内委員長 |
| 2000年 5月 | 情報処理学会平成11年度功績賞 |
| 2001年 3月 | 情報処理学会平成12年度フェロー |
| 2004年 5月 | 情報処理学会名誉会員 |